

ふるさとづくり

なかのしま

Nakanoshima

第6号
2011.12.27

編集・発行／長岡市中之島地域
ふるさと創生事業実行委員会

事業 その1 伝統行事体験事業2 P

6月4日(土)～6月6日(月)、大凧合戦会場に市民観覧席を設置しました。さらに6月6日(月)に中之島中学校1年生が地絡めに挑戦し、11月8日(火)に中之島中学校3年4組の生徒たちが大凧の組み方を学びました。

事業 その2 なかのしま探検隊4 P

7月24日(日)、11月20日(日)の両日、「中之島ふるさとカルタ」に出てくる中之島の名所などを訪れました。

事業 その3 大口れんこん収穫体験ツアー6 P

9月24日(土)、中之島の特産品「大口れんこん」の収穫体験などを行いました。昼食で振舞われた、採れたて新鮮な大口れんこんづくしの料理は絶品でした。



「360年の伝統の技はむずかしい…」大凧の糸付けに挑戦中の中之島中学校の生徒たち
11月8日(火)【凧組による大凧の組み方の勉強会】

事業その1
伝統行事体験事業

6月4日(土)から6日(月)の3日間、刈谷田川堤防で、360年以上の歴史を持つ伝統の「長岡市 中之島・今町大風合戦」が繰り広げられました。

今年も、大風合戦の醍醐味と迫力をゆっくりくつろぎながら体感してもらおうと、刈谷田川堤防上に市民観覧席を設置し、連日大勢の皆さんからご利用いただきました。



初めての地絡め体験。凧糸を手に堤防を力いっぱい駆けました

た。

市民観覧席では、中之島地域の特産品をPRしようと、ちまきや凧サブレなどを販売しました。市民観覧席の利用者をはじめ、多くの来場者が立ち寄り、購入されていました。

6日(月)には、見附市今町の天使幼稚園の園児たちが、市民観覧席の前で、かわいい歌声を披露



市民観覧席は、連日大勢の皆さんからご利用いただきました

してくれました。

優雅に舞う大凧を背に、元気いっぱい歌ってくれた園児たちに、市民観覧席の利用者の皆さんから温かい拍手が贈られました。

また、地域伝統の大凧の魅力を体感し、親しみと関心を持ってもらおうと、中之島中学校の生徒たちからいろいろな体験をしていただきました。

大風合戦最終日の6日(月)には、1年生が、地上であらかじめ凧を絡めて引き合う「地絡め」に挑戦しました。

合戦会場の両岸に分かれてスタンバイした生徒たちは、凧組の皆さんのアドバイスを受けながら、係員の合図とともに、凧糸を手に堤防を駆け、息を合わせて糸を引き、初体験の地絡めを満喫していました。



中之島中学校生徒が製作した力作揃いの応援パネル

大凧合戦本番中の会場で実際に地絡めに挑戦した生徒たちからは、「伝統の大凧合戦に参加できて楽しかった。」「貴重な体験が出来て良かった。もっとやりたかった。」などの声がありました。9月3日(土)に行われた運動会でも大凧が登場しました。この大凧は、中之島中学校に配布した4枚の白凧に、生徒が考えた絵を、生徒自ら描いたものです。この大凧を運動会での各チームの応援パネルとして活用していただきました。

その大凧を利用して、総合学習の時間に予定していた3年生によるグラウンドでの凧揚げ体験は、雨のため残念ながら中止となりましたが、11月8日(火)に、総合学習で大凧をテーマとした取り組みをしている3年4組の生徒たちが、学年を代表して凧組の皆さんから凧の組み方を学びました。

凧組の皆さんから手ほどきを受けながら、糸付けなどに挑戦。独特の糸の結び方に悪戦苦闘しながら

何度かチャレンジしていましたが、しつかりと風を受ける大凧に仕上げるために必要な微調整や繊細な作業。4枚の大凧のうち3枚の大凧の横骨が折れるというアクシデントもありましたがこれもご愛嬌。応急処置を施し

ながら、生徒たちは自らの手で見事な大凧を組み上げ、最後は体育館の中で大凧の試し揚げを楽しみました。



自らの手で組み上げた大凧の試し揚げ
4枚とも、きれいに舞いました!



独特の糸の結び方に生徒たちは大苦戦!

事業その2
なかのしま探検隊

7月24日(日)と11月20日(日)の両日、中之島の魅力と宝を発見してもらうことを目的に、「なかのしま探検隊」を開催し、中之島の名所などを訪れました。

7月24日(日)は、中之島地域にお住まいの皆さんを対象に募集し、23名の参加があり、11月20日(日)は、長岡市内にお住まいの皆さんを対象に募集し、10名の参加がありました。

今回のなかのしま探検隊は、「中之島ふるとカルタ」の大判タイプ(B3)を使ったカルタ取



全身を使った豪快なカルタ取り。見てる皆さんも大爆笑!

りからスタート。絵札に倒れこんで全身でカルタを取る子どもたちの姿に、会場は笑い声で包まれました。

訪れる場所を、カルタ取りが終わった後に発表し訪問しました。カルタに出てくる場所を中心として、7月24日(日)は、入澤記念庭園など11ヶ所を、11月20日(日)は、平清盛の異母兄弟にあたる平頼盛ゆかりの池公社など7ヶ所を巡りました。

当日のガイドは、主に「中之島観光ガイドの会」の方々をお願いしました。

訪れた先々でのガイドはもちろん、バスの中でも中之島についていろいろお話ししていただき、楽しく、わかりやすいそのガイ

ドぶりは、参加者の皆さんに大好評でした。

カルタ取りを楽しんだ後、カルタに出てくる場所などを訪れ、きのこの収穫体験やおまんじゅうづくり体験なども織り交ぜた今回の「なかのしま探検隊」。参加者の皆さんから、「カルタ取りも楽しかったし、知らない中之島を発見できて良かった。また参加したい。」「中之島に名所が多くあることを初めて知った。」「中之島の歴史をもっと知りたくなった。」などの声を多くいただきました。

「なかのしま探検隊」で訪れた場所は次のとおりです。



残り2枚!誰が取るかな?

稲島稲荷神社 **7月24日**

商売繁盛、病気平癒にご利益があるとされる稲島稲荷神社。お狐様と、奉納されたたくさんさんの赤い鳥居が迎えてくれました。

その他の訪問先

○六所六地藏《7月24日》

六所地内の道路沿いに安置されている六体のお地藏様は、その昔、子どもたちを水難事故から守るために、六つの淵がある堤防の上に安置されていたお地藏様です。

○黒鳥兵衛観音堂《7月24日》

黒鳥兵衛の守り本尊の観音像が安置されています。この観音像は眼の病を治す力があつたといわれています。

○三沼大ケヤキ《7月24日》

樹齢は400年以上といわれている三沼大ケヤキ。明治時代に、この地に三沼小学校が建設され、子どもたちに親しまれてきた大ケヤキは、廃校となった後も三沼地区のシンボルとして愛され続けています。

○夫婦橋《7月24日》

三沼地区と信条地区を結ぶ国道403号に架かっている橋で、橋の下には、中之島川と2本の低水路が流れています。昔は、この3本の川にそれぞれ、「童橋」、「婦橋」、「夫橋」が架かっていて、総称して「夫婦橋」と呼ばれていました。

○島虫堂《7月24日》

明治から昭和初期にかけて、信濃川流域で、つつが虫が多発し、中之島も多くの被害が出ました。島虫堂には、この災いから人々を救うための不動尊が建立されています。

○大沼排水機場《7月24日》

中之島の重要な治水施設で、昭和3年に初代排水機場が稼動し、現在の排水機場は4代目となります。大沼新田出身の吉原義雄は、治水や土地改良事業に大きく貢献され、排水機場の歴史にも欠かせない偉人です。

○与茂七地藏《7月24日》

約300年前、洪水から村を守り、一身を犠牲にして村人のために尽くした義民大竹与茂七を祭った地藏尊です。

○大竹邸記念館《11月20日》

治水、利水事業などで数々の功績を残された、中之島が生んだ偉大な政治家大竹貫一の生家で、ゆかりのある貴重な品々が数多く展示されています。

○友情の双像《11月20日》

長呂出身の漢学者武石貞松と、ともに「誠意塾」で学んだ堀口九萬一の友情を表した双像です。製作者は武石貞松の弟武石弘三郎で、双像の隣には、堀口九萬一の子堀口大学の詩文が刻された碑が建っています。

きのこ農家

7月24日



農家の方から、きのこの栽培方法などをご説明いただき、大きくて新鮮な、おいしい「生きくらげ」と「しいたけ」を、パックいっぱい収穫させていただきました。

入澤記念庭園

7月24日



日本の近代医学界に大きな功績を残した入澤一族を称え、池田謙齋生家跡に整備された庭園です。



災害復興祈念モニュメント

11月20日

平成23年10月に披露目された災害復興祈念モニュメント。このモニュメントには、中之島と見附市の地域住民の皆さんから寄せられたメッセージが刻まれています。



カントリーエレベーター

7月24日

中之島のおいしいお米を乾燥・調製・貯蔵するカントリーエレベーター。展望台から眺めた、一面に広がる“緑のじゅうたん”と遠くにそびえる弥彦山。この景色はまさに絶景でした。

お坪根様招魂碑

11月20日



平頼盛を慕い、京から訪ねてきた妻の水草の局は、夫の死を知り、悲しみのあまり、坪根の地で行き倒れたといわれています。水草の局を哀れんだ地元の人々は、招魂碑を建て、手厚く葬りました。

池公社

11月20日



池禅尼の子で、平清盛の異母兄弟にあたる平頼盛を祭っている池公社。中之島は、平頼盛が開拓したといわれています。

大沼もち加工組合

11月20日



地元のお米を使ってお餅や笹だんごなどをつくっている大沼もち加工組合では、黒糖まんじゅうづくり体験をさせていただきます。「新大正もち」のお雑煮ときなこもちをごちそうになりました。参加者の皆さんがつくった黒糖まんじゅうは、その場で蒸かし、お土産としてお持ち帰りいただきました。

鞍掛神社

11月20日



かやぶき屋根が見事な鞍掛神社。「寄棟造り妻入り」という建築様式の社殿は、中世の流れをくむ貴重な建造物で、県の有形文化財に指定されています。

事業その3

大口れんこん収穫体験ツアー

9月24日(土)、中之島の特産品「大口れんこん」の魅力を見て、触れて、味わってもらおうと、「大口れんこん収穫体験ツアー」を開催し、県内外から34名の参加がありました。

まずは、大口れんこんの収穫体験から。「胴長」と「手袋」を身に着け、順番にれんこん田へ入り、泥に足を取られそうになりながらも、一步一步慎重に進んでいきました。

そして、生産組合の皆さんから手ほどきを受けながら、手探りでれんこんを探し、立派に実ったれんこんを掘り出した時は、歓声を上げる方、驚きの表情を浮かべる方などさまざまでしたが、皆さん共通のリアクションは「満面の笑み」でした。昼食では、れんこんチップスや、



顔の泥は気にしません!大きうれんこんを掘り当てました



茎をストロー代わりに象鼻杯体験。皆さん興味津々でした

こんの皮をむき、切って、茹でて、れんこんのキムチ和えなどを調理しました。

他にも、はさみを使って蓮の実を花の形に変身させる「蓮の実アート」や、蓮の葉に飲み物を注ぎ、茎をストロー代わりにして飲む「象鼻杯ぞうびはい」なども体験していただきました。

大口れんこんの魅力も、余すことなく満喫していただいた「大口れんこん収穫体験ツアー」。参加者の皆さんからは、「楽しかった。また参加したい。」、「れんこん料理がとてもおいしく、れんこん料理の幅を広さを知ることができた。」、「れんこん生産の苦労がよくわかった。レシピや保存方法なども教えてもら

た。絶品料理の数々にどんどん箸を伸ばす参加者の皆さん。料理との相性の抜群の新米コシヒカリのおにぎりとともにお腹いっぱいいただきました。

れんこんを使ったいろいろなレシピや、れんこんの調理方法などを教えていただいた料理教室では、参加者の皆さんも一緒に採れたて大口れん



蓮の実アートに挑戦中。きれいな花の形にできたかな?



地元食材を使った絶品料理のフルコースは、子供たちにも大人気でした

「くじ引き」などで会場を盛り上げてくださり、また、アサヒビール(株)のホームページにも「大口れんこん収穫体験ツアー」の様子を掲載していただきました。



れんこん田での乗舟体験。子どもたちは大喜びでした

えて良かった。」、「生産組合の皆さんの「やさしさ」、「あたたかさ」がとても良かった。」などの声を多くいただきました。

今回の「大口れんこん収穫体験ツアー」には、アサヒビール(株)の皆さんも応援に駆けつけてくださいました。ドリンク類のサービスや